

命の尊さを伝える本(令和元年)

12月のおすすめ本

・「いのちの木」

ブリッタ・テッケントラフ / 作絵 森山 京 / 訳(東京 ポプラ社)

おすすめコメント:

みんなにとって特別だったキツネ、会えないことはとても悲しかった。

みんなで、キツネとの思い出を語り合っていると…

一緒に過ごした時間が悲しい心をあたたかくしてくれます。

(蔵書:北図書館)

・「まいにちがプレゼント」

いもと ようこ / 作絵(東京 金の星社)

おすすめコメント:

いもとようこさんの優しい絵と詩のような短い文でつづられる人生へのメッセージ。

本の最後に、題名のプレゼントの意味が分かり、今を大切に生きようと思います。

(蔵書:南図書館)

11月のおすすめ本

・「そして、バトンが渡された」

瀬尾まいこ著 (文藝春秋)

おすすめコメント:

5人の父と母がいる優子、17歳。血の繋がりがなくとも、いつでも両親を愛し愛されていた。身近な人が愛おしくなる優しい物語です。

(蔵書:中央、北、西、南図書館)

・「きみがしらないひみつの三人」

ヘルム・ハイネ / 著 天沼 春樹 / 訳 (徳間書店)

おすすめコメント:

人が生まれ、死んでいくまでの、頭と心と体のふしぎなはたらきを、

やさしく詩的に描き、子どもから大人までそれぞれに深く語りかける絵本。

(蔵書:中央、西、南図書館)

10月のおすすめ本

・「たくさんのふしぎ/月刊 2018年3月号 特集名 カフトムシの音がきこえるよ」

作 小島渉、廣野研一 (福音館書店)

おすすめコメント:

一年間の命の繋がりが分かる科学絵本。カフトムシ飼育の参考にもオススメです。

(蔵書:中央、西、南図書館)

・「チェロの木」

作 いせひでこ (偕成社)

おすすめコメント:

親子3世代と森とチェロとの関わり。また、挿し絵も素敵な絵本です。

(蔵書:中央、西、南図書館)

9月のおすすめ本

・「なみだ」

細谷亮太 文 永井泰子 絵 (ドン・ボスコ社)

おすすめコメント:

子どもを失ったお母さんの涙、引き裂かれた傷から沁みしてくる…

痛い、悲しい涙。しかし、命と向き合い、時を重ね、涙の意味は純化されてゆく。悲

しみが消えることはなくても…。

(蔵書:中央図書館)

・「世界を平和にするためのささやかな提案(14歳の世渡り術)」

黒柳徹子、香山リカ、中川翔子、ヨシタケシンスケ 他 著 (河出書房新社)

おすすめコメント:

えらい人がなにを言おうと、未来の平和はほくらのもの。

「自分の考えを素直に声に出し続けましょう」「人の意見を信じる前に、反対の意見を探してみよう」など、

多彩な22人のアイデアに生きる勇気をもらえます。

(蔵書:中央図書館)

8月のおすすめ本

・「わたし しんじてるの」

宮西達也/作・絵 (ポプラ社)

おすすめコメント:

トリケラトプスの子どもと恐ろしいティラノサウルス。

お互いを信じる気持ちが奇跡を起こす心暖まる物語です。

(蔵書:中央・北・西・南図書館、あおぞら号)

・「ピンクがすきってきめないで」

ナタリー・オンス/文 イリヤ・グリーン/絵 とき ありえ/訳 (講談社)

おすすめコメント:

黒が好きで昆虫や恐竜やクレーン車も大好きな女の子。「女の子らしくない」って言われるけれど…。

「らしい」ってなんだろう？みんなに読んでみて欲しい本です。

(蔵書:西図書館、あおぞら号)

7月のおすすめ本

・「ろくべえまっつろよ」

灰谷 健次郎／作 長 新太／絵 (文研出版)

おすすめコメント:

つばめのハティハティは、桜が咲く頃、

深い穴に落ちてしまった犬のろくべえを助けようと、あの手この手を考える1年生たち。自分たちで知恵を出しあう様子が可笑しくも頼もしい。

(蔵書:中央・北・西・南)

・「おおきくなるってことは」

中川 ひろたか／作 村上 康成／絵 (童心社)

おすすめコメント:

「おおきくなるってことは じぶんよりちいさなひとがおおくなるってこと」それって、どういうことなのかな？

(蔵書:中央・北・西・南図書館)

6月のおすすめ本

・「つばめのハティハティ」(鳥のおはなし絵本1)

箕輪 義隆／絵 寒竹 孝子／文 (アリス館)

おすすめコメント:

つばめのハティハティは、桜が咲く頃、

遠い南の国インドネシアからふるさとの日本まで、嵐を越えてやってきます。

メスのつばめと出会い、5羽の赤ちゃんを育て、やがて…。

小さなつばめが命を懸けていく力強さに感動します。

(蔵書:中央・西・南図書館)

・「ながいでしょ、りっぱでしょ」

サトシン／作 山村浩二／絵 (PHP 研究所)

おすすめコメント:

えっへん、どうです。ながいでしょ、りっぱでしょ！

動物たちが得意げに長さ自慢をしています。

さて、みんなの自慢はなんでしょう。

作者の柔軟な発想に、思わず笑っちゃいます。

(蔵書:中央・北・西・南図書館)

5月の推薦本

・「ほくのこえがきこえますか」(日・中・韓平和絵本)

田島征三 作 (童心社)

おすすめコメント:

2018年、国際アンデルセン賞国際審査員が、
世界中の子どもたちに読んでほしい翻訳を期待する絵本として選びました。
戦争で亡くなっていく命の怒りと哀しみが記された絵本です。
(蔵書:中央・北・西・南図書館)

・「ほくのぼしょなのに」

刀根里衣 作 (NHK 出版)

おすすめコメント:

パパとママのおなかの下は、ほくだけの場所。そう信じてたのに、生まれてきた明にうぼわれます。
ならぼ！と毛布にくるまり明に変身！
果たして、大切な場所取り戻せるかな？
ペンギン親子のほのぼの愛情物語。
(蔵書:中央・北・西図書館)

・「いちょうやしきの三郎猫」

成田雅子 作・絵 (講談社)

おすすめコメント:

突然いなくなった猫の三郎を探していた麻美は、
いちょう屋敷の前を掃除する三郎に会う。
三郎猫の言ったことは…。
相手を理解する難しさに切なくなります。
(蔵書:中央・西・南図書館)

4月の推薦本

・「3じのおちやにきてください 特製版」

こだまともこ 著 なかのひろたか 画 (福音館書店)

おすすめコメント:

春の小川を流れてきた「みどりのみどり」からの手紙に誘われて、
友だちを増やしながらかねていくと…
誰かのために何かをやってなんだかうれしいと感じる絵本です。
みどりのみどりにって誰でしょう？お楽しみに！
(蔵書:中央、北、西図書館)

・「ねずみくんのおくいもの」

つちだ よしはる／文 絵 あべ やすつぐ／原作 (教育画劇)

おすすめコメント:

原作者のあべさんは難病でした。

不自由な身体でも何か自分にできることで大好きな奥さんにプレゼントしたいと思い作ったお話が原作となっています。

得意なことは何もないと思っていたねずみくんは、大好きなねずみちゃんに何を贈ったでしょうか。ぜひ読んで確かめてください。

(蔵書:中央、北図書館)

3月の推薦本

・「優しい死神の飼い方」

知念実希人著 (光文社)

おすすめコメント:犬の体に降りた死神が、死を間際にした人たちの未練を解いていく。

限られた命、限られているからこそ、その間は精一杯輝いていたいと思う。

心温まる優しい物語です。

(蔵書:中央図書館、あおぞら号)

・「崩れる脳を抱きしめて」

知念実希人著 (実業之日本社)

おすすめコメント:研修医と脳腫瘍を患う女性。彼女の死は幻だったのか？

愛する人が側にいてくれるだけで、幸せになれることを教えてくれる物語です。

(蔵書:中央、北、西、南図書館、あおぞら号)

2月の推薦本

・「兄弟姉妹とくらべられても自分は自分(おとなになること 10)」

水井笙子/著 宮本忠夫/絵 岩崎書店

おすすめコメント:子供達はなぜ、「比べられる苦しさ」に陥ってしまうのか。

その原因を探ると、親として大人として、胸に手をあてて考えずにはいられなくなる本です。

(蔵書:北、南図書館)

・「ぼくがラーメンたべてるとき」

長谷川義史/作・絵 教育画劇

おすすめコメント:自分には当たり前なこの毎日、平穏なこの一瞬、

でも、となりのとなりのとなりのとなりの、何処かの国の誰かにとっては、どーでしょうか？

親しみやすい絵と共に深く考えさせられる絵本です。

(蔵書:中央、北、西、南図書館、あおぞら号)

1月の推薦本

・「あなたのことがだいすき」

えがしらみちこ/文・絵 西原理恵子/原案 KADOKAWA

おすすめコメント:西原理恵子の「女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと」から生まれた本。
子育てに奮闘中のママに、そして思春期を乗り越えて子育てひと段落のママにも、読んでほしい本です。
(蔵書:南図書館)

• 「おうち」

中川ひろたか／作 岡本よしろう／絵 金の星社

おすすめコメント:「はじめてのテツガク絵本」シリーズの第4弾。

なんでわたしは、このおうちにかえってくるんだろう。

ほっとする気持ち。帰りたくない気持ち。帰る家がない時は？

みんなも考えてみよう。

(蔵書:北図書館)